

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
KCS北九州 情報専門学校	昭和57年1月18日	石塚 吉臣	〒802-0001 福岡県北九州市小倉北区浅野2-4-1 (電話) 093-531-9131																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人 電子開発学園九州	昭和57年1月18日	松尾 泰	〒802-0001 福岡県北九州市小倉北区浅野二丁目4番1号 (電話) 093-531-9131																				
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																		
工業	工業専門課程	システムエンジニア科		平成7年文部科学大臣 告示	-																		
学科の目的	当学科は、企業が求める実践的かつ専門的な知識・スキルを有する高度ICT人材の育成を目的として、情報システムの設計・開発を行うための基礎力からより高度な知識・スキルまで、企業等との連携により専門的かつ実践的な演習・実習を通して学習する。																						
認定年月日	平成26年3月31日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
	3年 屋間							3210時間	1848時間	196時間	1166時間	0時間	0時間										
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
120人		189人	0人	6人	0人	6人																	
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 [評価点][評価][可否] 100～90 秀 合格 89～80 優 合格 79～70 良 合格 69～60 可 合格 59以下 不可 不合格																		
長期休み	■夏 季:8月1日～9月1日 ■冬 季:12月21日～1月7日 ■春 季:2月15日～3月9日		卒業・進級 条件		・当該年次の所定の科目が認定され、かつ、当該年次の規定出席日数を満たしていること。																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 スクールカウンセラーによる面談、放課後等の授業フォロー、 家庭訪問など		課外活動		■課外活動の種類 学園祭実行委員会 ■サークル活動: 有																		
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(令和5年度卒業生) IT・ソフトウェア・情報処理 ■就職指導内容 保護者対象就職説明会、業界セミナー、リクルートスタイルセミナー、校内での会社説明会、個別カウンセリング ■卒業生数 54 人 ■就職希望者数 53 人 ■就職者数 53 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 98 % ■その他		主な学修成果 (資格・検定等) ※3		■国家資格・検定/その他(民間検定等) (令和5年度卒業生に関する令和6年4月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>③</td> <td>90人</td> <td>49人</td> </tr> <tr> <td>応用情報技術者試験</td> <td>③</td> <td>34人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>情報処理安全確保支援 士試験</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>1人</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	基本情報技術者試験	③	90人	49人	応用情報技術者試験	③	34人	5人	情報処理安全確保支援 士試験	③	7人	1人
	資格・検定名	種	受験者数	合格者数																			
基本情報技術者試験	③	90人	49人																				
応用情報技術者試験	③	34人	5人																				
情報処理安全確保支援 士試験	③	7人	1人																				
(令和 5 年度卒業生に関する 令和5年4月1日 時点の情報)																							
中途退学 の現状	■中途退学者 7 名 令和5年4月1日時点において、在学者188名(令和5年4月1日入学者を含む) 令和6年3月31日時点において、在学者182名(令和6年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 不適応・意欲低下、心身耗弱・疾患		■中退率 4 %																				
	■中退防止・中退者支援のための取組 スクールカウンセラーの活用、リメディアル教育等の授業フォローアップ、ハラスメント相談窓口、日本学生支援機構奨学金等																						
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・KCS入学特典制度(特待生特典、KCS奨学生特典、支援・優遇特典、同窓子弟特典) 入学初年度学費から減免、返済不要、初年度学費を最高額とする ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象																						
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																						
当該学科の ホームページ URL	https://www.kcs.ac.jp/kitakyushu																						

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

当校では、教育課程の編成を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、カリキュラムを編成する体系図、授業科目の設定を行っている。学校の教育理念である「IT人材育成に関する国策の推進役を担うとともに、IT企業が求める実践的なIT人材を育成することにより、情報化社会の進展に寄与する」をもとに、IT業界の最新動向を調査・研究するとともに、国策や企業ニーズに対応するため、委員会への有識者・企業の委員参加を求め、意見の収集・反映を行っていく。

また、委員会を毎年度設置することにより、前年度に実施したカリキュラムの問題点・課題等を把握し、改善のうえで翌年度のカリキュラムに反映する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

カリキュラム検討委員会では、以下の事項を審議する。

- 1) 教育課程の編成及び実施に関すること。
- 2) 教育計画及び授業時間の編成に関すること。
- 3) 教材の確保、開発に関すること。

委員会の審議結果を基に、教務部長が中心となってカリキュラムの見直しを行い、翌年度のカリキュラムに反映させる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
庄司 裕一	北九州情報サービス産業協会 会長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	①
矢野 宏之	リンクソフトウェア株式会社 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	③
西 智也	KCS北九州情報専門学校 教務部長		
松井 智博	KCS北九州情報専門学校 学科長		
笛田 梨奈	KCS北九州情報専門学校 専任講師		
鈴木 邦夫	KCS北九州情報専門学校 専任講師		
結城 誠治	KCS北九州情報専門学校 専任講師		
曾我 英一	KCS北九州情報専門学校 専任講師		

※委員の種別

① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

② 学会や学術機関等の有識者

③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (12月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年12月13日 16:00～17:00

第2回 令和6年 2月19日 16:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

① 「Androidアプリケーション開発」では、委員会の提案を受け、環境設定から学生自身に行わせるように変更した。その結果、PCの画面でエミュレータを動作させるだけでなく、タブレットを使用して実機で動かすことで、学生が意欲的に授業に取り組んでいる。

② 業務において、フレームワークの環境に対応することがあるため、1年生から授業として触れておくのと良いとの意見を受け、検討した。言語の基礎的な知識をつけた上でフレームワークを使った学習をさせたいが、授業時限数の確保が現状難しいため、2年生の実習で実施を検討している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実際にシステム開発を業務としている企業と連携し、授業の実施・評価を企業により行うことで、実践的な知識とスキルの修得が可能となる。また業界の最新情報や実際の事例の解説などを行うことで、将来的に就職する業界についての学生の興味を喚起させ意欲を上昇させる。

これらの内容を盛り込んだ協定書・契約書を企業等と締結し、実習・演習を行い、システム開発における実践的かつ専門的な能力を育成する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業の技術者が参画して、教材作成・選定、科目の実施方法、評価方法の設計を行う。

実際の演習・実習は、企業からの講師派遣により実施し、学生へ直接指導する。

演習・実習終了時には、科目設計時に設定した評価方法を踏まえ、企業側講師と学校側講師が連携して学生の評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
実践システム開発演習	システム開発の上流工程（要件定義から基本設計まで）を体験する。	(株)エスシーシー

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

・専攻分野に関しては、IT企業と連携した技術研修を受講させることにより、システム開発等の業務に必要な知識（最新技術、技術動向等）や実践的な技術・技能を向上させる。

・授業及び生徒に対する指導力等については、コミュニケーション能力の向上を中心とした各種研修を受講させることにより、指導力を向上させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「情報技術eラーニング」(連携企業等:株式会社ベネッセコーポレーション)

期間:令和5年5月～令和6年3月

対象:全教職員

内容:プログラミング、セキュリティ及びネットワーク構築等の技術を学習する

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「レジリエンス研修」(連携企業等:インソース)

期間:令和5年5月～令和6年3月

対象:全教職員

内容:感情コントロール、自尊感情・自己効力感の高め方、良好な人間関係の築き方について学習する

研修名「アサーティブコミュニケーション」(連携企業等:インソース)

期間:令和5年5月～令和6年3月

対象:全教職員

内容:伝えにくいことを伝え、周りとの円滑にコミュニケーションを取るためのコミュニケーション方法を学習する

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「情報技術eラーニング」(連携企業等:株式会社ベネッセコーポレーション)

期間:令和6年6月～令和7年3月

対象:全教職員

内容:プログラミング、セキュリティ及びネットワーク構築等の技術を学習する

研修名「クラウド技術研修」(連携企業等:株式会社エスシーシー)

期間:令和6年8月

対象:講師職職員

内容:クラウド技術の基本、クラウド技術事例、基本サービスの実践利用、障害発生時の対応等のスキルを身に着ける

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「レジリエンス研修」(連携企業等:インソース)

期間:令和6年5月～令和7年3月

対象:全教職員

内容:感情コントロール、自尊感情・自己効力感の高め方、良好な人間関係の築き方について学習する

研修名「アサーティブコミュニケーション」(連携企業等:インソース)

期間:令和6年5月～令和7年3月

対象:全教職員

内容:伝えにくいことを伝え、周りと円滑にコミュニケーションを取るためのコミュニケーション方法を学習する

研修名「アンガーマネジメント講座」(連携企業等:インソース)

期間:令和6年6月～令和7年3月

対象:全教職員

内容:怒り、イライラのリスクや自身の傾向や兆候を把握し、思いや考え方を伝える方法を学習する

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、学校関係者として卒業生、その他、企業および学識経験者から構成される委員が参画した学校関係者評価委員会を設置して、自己評価をもとに、教育理念と目的に沿った人材育成がなされ、かつ、健全な学校運営(学生募集～教育～就職)が行われているか評価し、評価結果を教育活動その他の学校運営の改善等にかし、学校運営の客観性と透明性を高めることを目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none">・学校の理念、目的、育成人材像は定められているか・学校における職業教育の特色は何か・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか・学校の理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが学生、保護者等に周知されているか・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界ニーズに向けて方向づけられているか
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none">・目的に沿った運営方針が策定されているか・運営方針に沿った事業計画が策定されているか・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか・人事、給与に関する制度は整備されているか・教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか・教育活動に関する情報公開が適切になされているか・情報システム化等による業務の効率化が図られているか

(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ・資格取得の指導體制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか ・自己評価結果を公開しているか

(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
----------------	---

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

「卒業生の情報を活用すべきである」との意見を受け、卒業生の情報収集のためアンケートを作成し、複数の企業へアンケート配布の依頼を行うことを計画、実施する。」

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
庄司 裕一	北九州情報サービス産業振興協会 会長	令和6年4月1日 ～令和7年3月31日	有識者
有光 清志	リンクソフトウェア株式会社 取締役会長	令和6年4月1日 ～令和7年3月31日	企業委員
矢野 宏之	リンクソフトウェア株式会社 代表取締役	令和6年4月1日 ～令和7年3月31日	企業委員
蔵田 浩和	株式会社 YE DIGITAL 部長	令和6年4月1日 ～令和7年3月31日	卒業生
國盛 比菜	株式会社ラック 社員	令和6年4月1日 ～令和7年3月31日	卒業生
大浦 憲昭	東筑紫学園高等学校 課長	令和6年4月1日 ～令和7年3月31日	高校関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ

URL: <https://www.kcs.ac.jp/kitakyushu/outline/disclosure/>

公表時期: 令和6年6月24日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学園に対して連携を行う企業、関係者に対し、当学園に対する深い理解を得てもらうことで連携を円滑にすることができ、それにより連携を進め、活動の充実や教育内容の向上を図る必要がある。

そのため、学園は連携する企業に対し、教育目標や計画などの方針をはじめ、教育対象となる生徒・カリキュラム、教育環境や経営情報などの情報を公開し、もって企業との相互理解を深める。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要(校長名・所在地・連絡先・沿革) 学校の教育理念・特色
(2) 各学科等の教育	定員数、カリキュラム、卒業・進級要件、成績評価の基準 資格取得実績、主な就職先・就職率
(3) 教職員	教職員数、組織図
(4) キャリア教育・実践的職業教育	演習・実習への企業との連携方針、就職支援等への取組支援
(5) 様々な教育活動・教育環境	教育環境、学校行事、課外活動
(6) 学生の生活支援	学生支援体制、スクールカウンセラー
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金、奨学金
(8) 学校の財務	資金収支計算書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	-
(11) その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ

URL: <https://www.kcs.ac.jp/kitakyushu/outline/disclosure/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 システムエンジニア科) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ITの職業と情報倫理	情報処理分野の職業を紹介するとともに、個人情報の扱いや著作権法、人権などインターネットを利用する上で必要となる情報倫理について学習する	1前	30		○			○		○		
○			基礎理論	情報処理技術者に必要な情報、制御、通信などの基礎理論を学習する	1前	30		○			○		○		
○			ハードウェア	コンピュータを利用する際に必要となるハードウェアの基礎知識を学習する	1前	30		○			○		○		
○			システムとソフトウェア	コンピュータを利用する際に必要となるソフトウェアの基礎知識を学習する	1前	30		○			○		○		
○			データとアルゴリズム	データ構造の考え方や基本的な仕組みを学習する	1前	90		○			○		○		
○			ネットワークとセキュリティ	ネットワーク及び情報セキュリティの概念、仕組み、構成要素について学習する	1前	30		○			○		○		
○			アルゴリズム	アルゴリズムの基礎から実業務で利用される各種技法まで学習する。また、プログラムで扱うデータ構造を学習する	1前	30		○			○		○		
○			SEA/J基礎	情報セキュリティ全般の知識を習得し、SEA/J基礎コース試験に合格するレベルを目指す	1後	30		○			○		○		
○			AIの活用と開発手法	AIの基礎知識を身につける	1後	30		○	△	△	○		○		
○			システム開発と情報戦略	システム開発の手順及び各工程の作業内容を学習する。また、ソフトウェア開発の管理方法についても学習する	1前	30		○	△		○		○		
○			システム設計	設計手法や手順、工程ごとの作業などシステム設計の基礎知識と技術を学習する	1後	60		○			○		○		
○			データベースの基礎	リレーショナルデータベースの概念やデータの関連性、データベースの利用方法について学習する	1前	30		○			○		○		

授業科目等の概要

(工業専門課程 システムエンジニア科) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			IT戦略とマネジメント	企業会計や経営工学等の経営に関する基本技術を学習すると共に情報戦略やセキュリティの考え方を学習する	1前	60		○			○		○		
○			IT戦略とマネジメント2	ITサービスマネジメントや、プロジェクトマネジメントなど、経営管理に関する基礎知識や考え方を学習する	1後	60		○			○		○		
○			Java	J a v a の概要を理解するとともに、基本アルゴリズムをJ a v a で作成し、プログラミング技術の向上を図る	1後	90		△		○	○		○		
○			特別講座1	各種検定試験の受験対策を行う	1通	270		○			○		○		
○			HTMLとCSS	Webアプリケーション構築で必要となる基礎知識としてHTML、CSS、JavaScriptについて機能、使用法を学習する。	1後	30		△		○	○		○		
○			ヒューマンスキル	グループ演習を通して、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎力(=社会人基礎力)を養う。	1後	30			○		○		○		
○			SQL	SQLのデータ操作言語について、基本構文を学習する。	1後	60		○			○		○		
○			行事	入学式、リクレーション、学園祭等の行事	1通	30		○			○		○		
○			セキュリティ応用	情報セキュリティの考え方と技術を具体的に学習する	2前	30		○			○		○		
○			オブジェクト指向プログラミング1	オブジェクト指向の概念をもとに、Javaによる実装方法を学習する	2前	90		△		○	○		○		
○			オブジェクト指向プログラミング2	オブジェクト指向プログラミング1で学んだ技術を活用し、実践的なJavaプログラミングを習得する	2後	60		△		○	○		○		
○			Linux	Linuxを通してOSの機能であるユーザ管理、ファイル管理、ネットワーク管理などを学習する	2前	30				○	○		○		

授業科目等の概要

(工業専門課程 システムエンジニア科) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			アプリケーション開発技術	オブジェクト指向の技術を用いてアプリケーションの開発・設計手法を学習する	2後	30		○			○	○			
○			クラウドテクノロジー	AWSのEC2やS3など技術的なことを学習する。AWSクラウドプラクティショナリーに合格するレベルを目指す。	2後	60		○	△	△	○		○		
○			Webアプリケーション構築1	サブレットとJSPの仕組みからDBの連携までを学習する。開発環境には、統合ソフトウェア開発環境であるEclipseを利用する	2後	90		△		○	○		○		
○			Webアプリケーション構築2	Webアプリケーション構築1で学習した内容を前提に簡易なショッピングサイトをグループで制作する。作成した作品は発表会形式で評価する	2後	90				○	○		○		
○			統計学	AIにおいて重要なデータの関連性を見つけるために必要となる知識である統計学をExcel実習を通して学習する	2後	30		○	△	△	○		○		
○			データベース実習	データベースサーバに対しSQL文を発行し結果を確認するマシン実習を行う 必要な結果が得られるSQL文が作成できる能力を習得する	2前	30		△		○	○		○		
○			ビジネスマナーと文書技法	ビジネスマナーやビジネス文書、論文の書き方を学習する。また、eメールによる意思伝達の方法について学習する	2後	30		○			○		○		
○			JavaScript	JavaScriptの基礎から、動的Webアプリケーションを開発するために必要な知識までを実習を通して習得する	2後	30		○		△	○		○		
○			PHP	サーバーサイドスクリプト言語PHPの文法とWebアプリケーションの基礎知識を学習する	2前	30		△		○	○		○		
○			特別講座2	各種検定試験の受験対策を行う	2通	300		○			○		○		
	○		プログラミング応用	Pythonの基本文法に加えて、オブジェクト指向や標準ライブラリの使用方法を習得する	2前	60		△		○	○		○		
	○		ネットワーク応用	ネットワークの考え方と技術を具体的に学習する ヤマハネットワーク技術者認定試験Basic★に合格するレベルを目指す	2前	60		○		○	○		○		

授業科目等の概要

(工業専門課程 システムエンジニア科) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			就職対策 2	就職活動の手順、書類の書き方、面接方法などを学習するとともに、社会人としてのマナーと一般常識を身につける	2後	60		○			○		○		
○			行事	リクレーション等の行事	2通	30		○			○		○		
○			C/Sシステム構築	GentOS(Linux)を使用した、ネットワークサーバの構築と運用を学習する	3後	30		△		○	○		○		
○			テストと導入・移行	ソフトウェア開発における品質管理の技法を理解するとともにシステムのテスト・導入・移行について具体的に学習する。	3後	30		○	△	△	○		○		
○			実践システム開発演習	企業講師による最新の上流工程の設計演習を行う。プロジェクトによる演習で、打ち合わせ、議事録、設計、レビューなどの開発現場での一連の流れを演習する。	3前	30				○	○		○		○
○			企画と提案	提案書を作成する工程を通して企画書提案の方法やグループ討議、プレゼンテーションの技術力を高める。	3前	60				○	○		○		
○			Androidアプリケーション開発1	Android端末の利用方法や、プログラミングによるアプリケーション開発の手法を学習する	3前	90		△			○	○	○		
○			Androidアプリケーション開発2	Androidアプリケーション開発1で学習した内容を前提にAndoidアプリをグループで作成する 作成した課題は、発表会形式で評価する	3前	120					○	○	○		
○			特別講座 3	各種検定試験の受験対策を行う	3後	150		○			○		○		
	○		AIプログラミング	Pythonを使用し、機械学習・ディープラーニング等のAIに関するプログラミングを学習する	3前	60		△			○	○	○		
	○		Python	プログラミング言語Pythonについて、その基礎文法、プログラミング手法を習得する	3前	60		△			○	○	○		
	○		卒業研究	研究課題を企画・制作し、プレゼンテーションを行う	3後	390		△			○	○	○		

授業科目等の概要

(工業専門課程 システムエンジニア科) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		総合研究	仕様書をもとにプログラミング作成、その動作テストを行い、プログラミング技術とデバッグの力を身につける	3後	390			○	○		○			
○			就職対策3	就職活動の手順、筆記試験、面接試験の方法などを学習するとともに、社会人としてのマナーを身に付ける。また、企業説明会等に参加し、企業の情報収集を行う。	3通	60		○			○		○		
○			行事	リクレーション、学園祭、卒業式等の行事	3通	30		○			○		○		
合計				51 科目		3210					単位時間(単位)		

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
すべての必修科目（選択必修含む）で可以上を修めること。 学科・コースで定められた科目を履修すること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	20週